

# 梅田川水系河川整備基本方針論点整理表（水系の特徴）

## 河川及び流域の現状

### 流域の概要

- 梅田川は、愛知県豊橋市雲谷町に源を発し、静岡県と愛知県の県境を南流し、南より流下する境川を合流して流向を西方に変えた後、6つの支川と合流し、三河湾に注ぐ流路延長13.1km、流域面積89.0km<sup>2</sup>（静岡県側5.4km<sup>2</sup>、愛知県側83.6km<sup>2</sup>）、流域内人口約11万4千人の二級河川である。
- 流域の殆どが台地に占められ段丘が形成されている。下流部には三角州や砂州からなる海岸平野が発達している。
- 流域は、全国平均と比較すると温暖な気候であり、年間降水量はほぼ全国平均と同じ程度である。
- 流域の人口・世帯数は増加傾向にあるが、現在がほぼピークであり、今後は減少していくことが予測される。
- 基幹交通網である国道1号、国道23号、国道42号、JR東海道新幹線、同東海道本線が流域を東西に通過している。下流部を豊橋鉄道渥美線が横断している。上流部では、天竜浜名湖線が北東へ延びている。
- 中流域に在る二川町は古くから東海道の宿場町として交通の要所であり、現在でも主要交通路が集中している。
- 流域の人口の増加に伴い流域内の宅地化が進む一方、水田や畑は徐々に減少しているが、平成9年以降は土地利用の変化が少ない。（平成21年時点で流域全体の市街化率は約26%、平成9年とほぼ同じ割合）
- 産業は、第1次産業従事者が減少し、第3次産業従事者が増加している。流域の代表的な産業としては、農産物や自動車関連の製造業が挙げられる。
- 流域には、二川宿本陣や旧籠屋など宿場町として機能した地域の歴史を残す文化財が多くあり、また現在の街並みも、当時の痕跡を残すものとなっている。

### 治水の現状と課題

- 昭和49年の台風8号による被害が甚大であり、近年では平成20年8月末豪雨において市街地での浸水が発生している。
- 静岡県流域でも昭和49年の浸水被害が甚大であり、平成3、5年にも浸水被害があったが、近年では大きな浸水被害は発生していない。
- 梅田川の河口から4.1km地点までは中小河川改良工事等により改修が行われており、下流部の支川及び梅田川（半尻川）の下流部の改修が行われている。
- 梅田川の河口から4.1km地点までは1/10年確率以上の流下能力を有しているが、中上流部は1/10年確率を下回る。
- 静岡県流域の梅田川（半尻川）は改修が済んでおり1/5年確率の流下能力はあるが、その上流の愛知県側は1/5年確率の流下能力を下回る。また、境川も1/5年確率の流下能力を下回る。

### 河川的环境（自然環境）

- 環境基準点の御厩橋では、近10年においてBOD75%値の環境基準（C類型：5mg/l以下）を満足しているが、上流の観測地点では満たしていない。
- 梅田川流域では、ニホンウナギやドジョウ等の重要種が29種確認されている。静岡県流域では、11種類の重要種が確認されている。

### 河川の利用及び地域との関わり

- 梅田川では8件、水系全体では23件の水利権があり、約3.5m<sup>3</sup>/sが農業用水として利用されている。全て豊橋市である。
- 梅田川では、上水及び工業用水として取水されていない。
- 二川地区は、歴史文化財が多く残されているほか、桜並木も整備されており、地域の歴史文化をテーマにした散策路として活用されている。梅田川の堤防は、新所原駅から湖西連峰に至るハイキングコースの一部として、利用されている。
- 梅田川では、地元有志らによる団体「梅田川フォーラム」により、河川美化活動や観察会等の各種活動が行われている。
- 二川駅周辺で草刈りや河川清掃を行う「梅田川ふれあいクリーン作戦」が毎年実施されているほか、梅田川（半尻川）上流域のゲンジボタルの生息域では、近隣の小学校での環境教育の一環としてホタルの保護活動が行われている。
- 静岡県側の自治会では「梅田川ふれあいクリーン作戦」への参加や、静岡県側での河川美化活動を行っている。

## 水系の特徴（着眼点）

### 流域の概要

- 流域の人口・世帯数は増加傾向にあるが、現在がほぼピークである。
- 梅田川本川沿いに市街地が広がっており、氾濫した場合は社会的影響が大きい。

### 治水の現況と課題

- 愛知県流域では昭和49年の台風8号による被害が甚大であり、近年では平成20年8月末豪雨において市街地での浸水が発生している。
- 梅田川本川の河口から4.1km地点までは1/10年確率以上の流下能力を有しているが、中上流部は1/10年確率を下回る。
- 静岡県流域では昭和49年の台風8号による被害が甚大であったが、近年では浸水被害が発生していない。
- 近年の局地的豪雨や将来の降水量の増加による災害リスクの増大が懸念される。
- 静岡県流域の梅田川（半尻川）は1/5年確率の流下能力はあるが、県境より上流側は1/5年確率の流下能力がない。境川は1/5年確率の流下能力を下回る。

### 河川的环境（自然環境）

- 環境基準点での水質は環境基準を満たしているが、上流では満たしていない。
- 梅田川流域全体では、ニホンウナギ等の重要種が29種確認されている。（静岡県流域では11種確認）

### 河川の利用及び地域との関わり

- 二川地区は、歴史文化財が多く残されているほか、河川沿いの桜並木が散策路として活用されている。湖西市では、湖西連峰へ至るハイキングコースの一部に梅田川の堤防が活用されている。
- 地元団体による河川美化活動等が定期的に行われており、住民の河川愛護に対する意識は強い。

## 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川整備の基本理念（案）

河川整備の基本方針（案）